

8月は「人権尊重社会をめざす 県民運動強化月間」です

私たちの周りでは、いじめやパートナーへの暴力、子どもや高齢者に対する虐待、インターネット上での人権侵害など、様々な人権問題が起きています。

一人ひとりの人権が尊重される、差別や偏見のない社会の実現のためには、私たちが人権問題を自分自身の問題と捉え、主体的に取り組むことが必要です。

「人権尊重社会をめざす県民運動」は、すべての県民がお互いの人権を尊重しながら共に生きる社会を実現するため、県・市町村はもちろん県民総ぐるみで取り組む運動です。

問合せ ● 小鹿野庁舎・総務課 ☎75-1221

人権擁護委員が 委嘱されました

人権問題について皆さんの相談相手となる人権擁護委員として、下小鹿野の横田岩雄さんが、令和元年7月1日付けで法務大臣から委嘱されました。

人権擁護委員は、町民の中から町長が推薦した人を法務大臣が委嘱する民間のボランティアで、人権相談や人権尊重のための啓発活動などを行っています。

なお、相談日は広報の定期無料相談ページ(今月号は22ページ)に掲載していますのでご確認ください。

問合せ ● 小鹿野庁舎・総務課 ☎75-1221

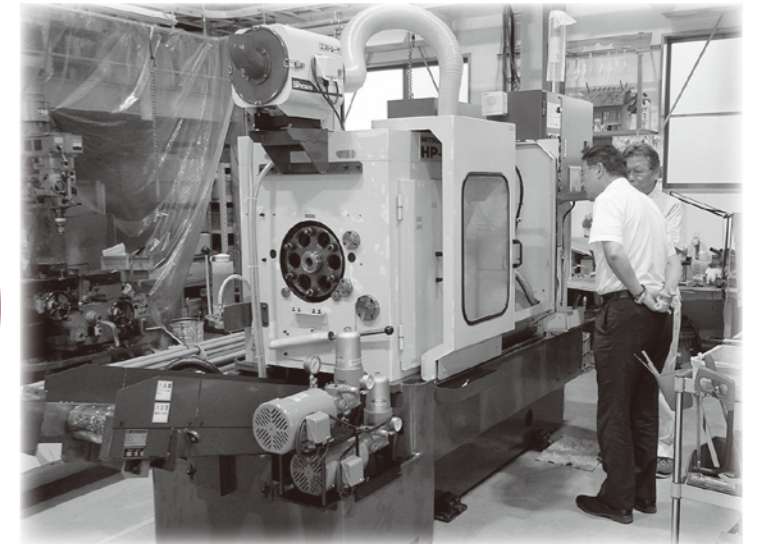


町長の
まち・ひと・しごと
魅力発信

～ 事業所訪問 vol.17 ～

「田中精機株式会社」

町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を連載します。



工場内で修理中の六軸自動旋盤

わが社の主力製品

主力のミニチュアベアリングの内外輪の加工、空気圧部品は丸物・六角を問わず、様々な形状の施盤品の加工を得意とし、いずれもお客様のニーズにあった対応が可能です。また、当社開発のベアリング用全自動検査機TIシリーズは自動で製品の径・外径・溝径等を測定し正・不良の別を正確に短時間で判別することができます。



女性社員による検査作業

ここに自信あり

平成22年(2010年)、ベアリングの機械の修理部門を当社で設立し、自ら修理し、更にはお客様の依頼に応じた修理対応を行っています。また、当社開発のベアリング用全自動検査機は、同業他社へ販売もしております。当社の全自動検査機で月産数量300万ピースを検査し、Made in Japanとして国内、そして海外向けに出荷しております。



田中社長(右)

町長の見て・聞いて・話して

第17回の事業所訪問は、6月19日に田中精機株式会社を訪問し、田中安行社長にお話を伺いました。

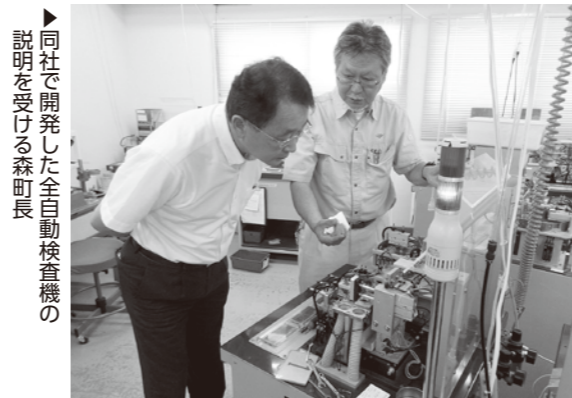
田中精機株式会社は、昭和44年(1969年)、金属切削加工を目的とした精機部から分離し、ミニチュアベアリング加工を主力とする会社として設立されました。

平成5年(1993年)には中国に工場を設立し、更なる量産品の対応を図るとともに、国内においては、空気圧部品及び「ミニチュアボールベアリング」の多品種少量生産に努力されておりました。

ミニチュアベアリングは、回転するものに使われるため、車や家電製品、パソコンなどの機械に組み込まれ、目に見えない主役として生活の中でありとあらゆるところで使用されています。

工程ごとに整備された工場では、ミニチュアベアリング製品・空気圧部品・自動全検機の開発、製造等を熟練の社員による、技術を活かした緻密な作業が行われていました。

同社は、私たちの暮らしの安心、安全、快適な生活を支えるもの創り企業であると同時に、創業から50年、お客様目線の品質を第一に考えた「誠実なもの創り」の企業理念のもと、常に品質と技術、新しい事へ挑戦し続ける企業であると感じました。



▶ 同社で開発した全自動検査機の説明を受ける森町長

こんにちは。
町長です。

観光について考える



夏定番となり、小鹿野町にも多くのお客様が来訪する季節となりました。

夏休みは、特に児童・生徒や学生の夏合宿、家族連れのお客様が町に訪れます。

秩父地域の1市4町等で組織する秩父地域おもてなし観光公社の推計によると、秩父地域の入込観光客は約900

万人となっていますが、そのうち小鹿野町の入込観光客数は約45万人と秩父地域全体の約5%です。

秩父地域の入込観光客数は、順調に増加しております。これにはいろいろな要因が考えられますが、秩父地域は首都圏でありながら豊富な自然や祭りなどの文化資源に恵まれていることや、鉄道会社等によるテレビCM放映、市町等の観光誘客の様々な事業展開などによるところが大きいと考えられます。観光客も「近い、安い」がひとつの観光地を選ぶ基準になっていると思います。

ところで、世界的な観光立国であるスイスでは、入込観光客の計算基準を宿泊数にしているとのこと。秩父地域の入込観光客のほとんどが日帰りのお客様であると存じますので、今後はいかにお客様に宿泊していただけるか、そのための受入体制の充実、特に、お客様が宿泊して楽しんでいただけるような多様なソフト事業などのメニューの確保が求められます。観光客の消

費単価をいかに上げるかがポイントです。そして、リピーターを確保することも重要です。リピーターは、交流人口から今後大切になる関係人口になれる人達が多く含まれていると思います。

また、これからの増加が見込まれる外国人客をいかに誘客するかも大きな課題であります。特に、外国ではキャッシュレス化が進み現金決済はしないことが普及しています。これらの対応も観光消費の拡大には喫緊の課題であります。外国人客は東京や京都などの有名観光地だけでなく、これからは豊かな自然や文化のある町に注目してくれるものと思います。

さて、小鹿野町は鉄道がない町であり、観光客が入り込む場合には自家用車や鉄道駅からのバス利用がほとんどであります。したがって道路交通網の整備は小鹿野町の生命線であります。幸いにも平成30年3月に西関東連絡道路国道140号皆野秩父バイパスが国道299号に接続し、小鹿野町へのアクセスは向上いたしました。今後は、国、県に対し西関東連絡道路の延伸や秩父市内へ直結するトンネルの開削整備の要望活動には力を入れてまいります。

更に重要なことは交通インフラだけでなく、情報発信で、いかに小鹿野町の本来の魅力や本当の宝を発信できるかがポイントになります。今後は観光から雇用を創り出し、外貨を稼ぐ地域経済の柱のひとつに成長させていかねばならないと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎

会社概要

代表者 代表取締役社長 田中安行
従業員数 40名
創業 1969年
所在地 小鹿野町下小鹿野1822
電話 0494-75-2311